

早稲田大学高等学院中

早稲田大学における唯一の付属中学校として 2010 年 4 月武蔵野の地に開校

<http://www.waseda.jp/gakuin/chugaku>

科目	配点	時間
社会	80 点	40 分

作成者
遠藤 久

出題傾向

出題傾向概要

大問が 6 題。地理分野は人口問題、都道府県で各 1 題ずつ、海岸線に関する 100 字記述が 1 題。歴史分野は通史の総合問題、近現代史で各 1 題ずつです。公民分野は時事問題で 1 題となっています。地理分野、歴史分野が中心で公民分野は 2 年連続で少なめとなっています。試験時間 40 分、配点 80 点で、記述を含めた小問数が 50 問とかなり問題量が多くなっています。難度的には、極端に難しい問題や奇問はなく中難度以上の問題がほとんどで、社会科の実力が正当に試されるつくりとなっています。

問題構成詳細

大問全体のつくりは、今年度の問題を例に挙げますと、大問 1 は地理分野で 5 問の小問集合です。大問 2 も地理分野では、小問が 19 問で最大の分量になっています。大問 3・4 に歴史分野を置きそれぞれ 10 問ずつ、大問 5 に 100 字記述、最後の 6 は公民分野で小問が 5 問となっています。大問の配列が昨年とまったく同じであり、ひとつのスタイルとして確立する意図がうかがわれます。

大問 1 は日本の人口問題で穴埋めが 3 問、選択肢の問題が 2 問です。年齢別区分の名称や、限界集落（過疎化などで人口の 50%以上が 65 歳以上の高齢者になり、冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難になった集落）を答えさせるなど難度が高いといえます。選択肢の問題も県の首位都市（最大の人口をもつ都市）30 万人未満の 3 県の組み合わせや、65 歳以上の人口割合が 25%以上の分布図を選択させるなど高難度です。大量の知識よりも、日本の現状を見抜く大局観と分析力がものをいいます。

大問 2 は小問 19 問の構成です。静岡県・沖縄県・熊本県・山形県の位置、地形、産業を問う問題です。問 1 では穴埋めが 12 問、そのうち 9 問が漢字指定です。その他の小問では 3 問の漢字指定、沖縄県の第 3 次産業人口割合が高い理由を 30 字以内で記述させるなど大分量になっています。しかし内容は平易ですのでスピーディに問題をこなして得点を稼ぎたいところです。

大問 3 は邪馬台国から江戸時代までのおもに外交関係を題材として作問されています。「後漢書」卑弥呼や蘇我馬子などの関連問題で難問はなく、きちんと歴史の学習をしていれば正答を得られる問題ばかりです。

大問 4 も歴史分野ですが、A 文は戦前の戦争関係、B 文が戦後の改革を題材とする近現代史です。A 文問題の最後に 1930 年代の日本の行動を 50 字でまとめる記述が出題されています。B 文の最後には戦後改革の総決算として日本国憲法の問題が 1 題取り上げられています。どの問題も平易で失点は許されないところです。

大問 5 は 100 字記述です。日本各地の砂浜海岸の減少の理由を、川の 3 つの働きとダム功罪から書かなくてはなりません。やや難問といえます。

大問 6 は東南アジアの新興工業経済国、東北新幹線の新型車両名、酒税、韓国のハブ空港、アメリカの保守的な政治運動グループなど、一般教養問題が 5 問となっています。

総括

40分の試験時間内で6つの大問を上手に攻略し、やり残しをしないことが最大のテーマになります。得意分野から積極的に回答し難問にどれだけ多くの時間を配分することができるかが合否を分けます。

2年連続で同じ形式で出題されているので来年以降もこのパターンが継続されると、予測されます。

対策

大問ごとの対策

1. 人口問題は国家存亡の大問題 よって出題せざるを得ない

人口問題に関係する社会科用語と統計資料、グラフは正確に理解し活用できるようにしましょう。具体的には日本の総人口、将来推計人口、人口減少が続く地域や県、人口増加地域や都道府県、年齢別人口の構成比、人口ピラミッドの推移とその理由、少子化の理由と対策、高齢化の理由と問題点、合計特殊出生率、産業別人口の割合に特殊な偏りを持つ都道府県と理由などです。あとはすべてこれらの応用です。

2. 地方別地理は白地図から弱点を整理

都道府県の特徴は白地図を使って作業学習することが受験地理の第一歩です。習得した單元ごとに日を置かず、地道に白地図を埋めていきましょう。6年になり全單元を終了したら改めて白地図を総ざらいし、今度は弱点項目を認識し整理記憶しておくのと万全です。ここに王道はありません。日々精進あるのみです。

3. 歴史は時代から

歴史は、昨年も今年も1問は通史として全時代から出題されています。解答を拾ってみると、稻荷山古墳、平城京、寝殿造、源平合戦、室町時代の民衆の成長、明智光秀、後漢書、蘇我馬子、北野天満宮など、政治、外交、文化、人物など多岐にわたり傾向などは見つけられません。しかし難度は低く得点しやすくなっています。小学校の歴史を普通に習得してきてくださいというメッセージを感じます。

4. 明治、大正は大隈重信の活躍した時代

本校の先生方は大隈重信や早稲田に特別な思いを抱いています。受験初年度の昨年は両方出題されました。

建学の精神を受け継ぐものとしては当然のことです。創立者や多大な貢献をした人物、活躍した時代をよく調べておくことは私学受験生として忘れてはなりません。

1931年からの15年戦争はポツダム宣言受諾につながる日本史の最激動期です。受験でもねらい目となるところですので、研究、理解、整理することが大切です。

5. 100字記述は充分練習していこう

記述はテーマを決めて書き方の練習をしておきましょう。関係する社会科用語をできるだけたくさん書き出すことから始めます。本文の構成を考え使用する用語を取捨選択します。次に用語を短文化し、配列を考えます。最後に字数にあわせて肉付けをします。

6. 公民は毎日の生活から

東北新幹線の新車両の愛称、アメリカの保守政治運動グループ『ティー・パーティー』、裁判員制度、プライベートブランドなど多岐にわたります。毎日のニュース、時代の風潮流行、世界的イベントなどに関心を持って生活を送っていきましょう。受験を中心にしながら受験勉強だけにしないことが肝要です。

試験問題全体への対策

地理分野においては、地方別地理と人口問題に習熟しておくこと。テーマ記述に慣れておくこと。歴史は的を絞らず全分野を広く学習すること。公民はいろいろな社会事象に興味を持っていくこと。

大問ごとの時間配分や、とく順番のつけ方など、入試本番のつもりで実践練習を重ねていくこと。最後にやるだけのことをやり終えたなら、合否の結果に拘泥しない心境に達して受験にのぞめるはずです。

特徴的な問題の紹介

平成 23 年大問 2-B

次の各文はそれぞれある都道府県について述べたものです。よく読んであとの問いに答えなさい。

B. 温暖な気候と美しい景観で知られるこの県には、世界遺産に登録されている遺跡があります。これらは 13 世紀から 14 世紀ごろにかけて有力者たちの拠点であった「城」であり、この地方ではこれらの「城」のことを と呼んでいます。この県では第三次産業人口の割合が高く、東京都並の高さとなっています。一方、農業では気候風土をいかして、長い 栽培が盛んでしたが、近年は園芸農業が盛んになってきています。また、宜野湾市の市街地にある米軍の 基地は移転問題が話題となっています。

< 解答 >

グスク 促成 普天間

出題の意図および解説

入学試験はたった一度の一発勝負の選抜試験です。だからこそ、できるだけまぐれ、偶然の介在する余地を少なくしよう。本当にこの日、この 40 分という短い時間のために気の遠くなるような努力を続けてきた子供を合格させよう、という優しく暖かい思いやりをこの問題から読み取ることができます。

中部地方の静岡県から、旧国名の遠江の名前の由来、水産業から天下の焼津港、地形から江戸時代に開発された天竜川など、

九州地方の沖縄県から、世界文化遺産の琉球王国のグスク、第三次産業人口の割合が高い理由の記述、普天間基地の時事問題など、

同じ九州地方の熊本県から、世界一のカルデラの阿蘇山、日本三大急流の球磨川、農作物から圧倒的シェアのい草、公害病の水俣市など、

東北地方の山形県からは出羽富士と呼ばれる鳥海山、江戸時代河村瑞賢の開いた西回り航路、最上川の上流と下流の交流など、大量の 19 問が本格的な社会の勉強をした生徒にだけ理解できる、まさに本校から送られたエールなのです。